

湘南学園だより



発行：湘南学園だより編集部



CONTENTS

新たな社会へ	
2021年度を振り返って	
学園を愛する卒業生の1人として思うこと	
繋がるバトン	
今できる事とは？	
食育ラボより	
未来はあそびの中に	
子どもたちによる子どもたちのための学校	
コロナ禍でも、さらによいものを	
コロナ禍の子どもと学園教育	
2021年度「松ぼっくり基金」のご報告	

全学の教育環境整備から	
学校法人からのご報告	

理事長	内海直人	2
学園長	山田明彦	3
同窓会副会長	前川力	4
後援会会長	田辺真理	4
P T A会長	大津誠二	5
特定非営利活動法人湘南食育ラボ 理事長	原田ゆう子	5
幼稚園園長	古田優子	6
小学校校長	岸田修成	7
中学校高等学校校長	伊藤眞哉	8
2021年度全学教研実行委員長	有蘭和子	9
理事長	内海直人	10
学園長	山田明彦	11



新たな社会へ

理事長 内海 直人

＊卒業生の皆さんへ

卒業式、終業式の月を迎え、このようなコロナ禍においても、この一年間の活動を通して子どもたちの心身ともに成長した姿が見られることは、保護者、教職員、地域の皆様との共育の賜物と、心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さんへ、ご卒業おめでとうございます。

卒業生の皆さんは、この恵まれた湘南の環境の中で幼稚園の3年間、中学校の6年間の6年間、中学高校の6年間の6年間、これからの新たなスタートラインに立とうとしています。これからの皆さんの人生が希望に満ちあふれた素晴らしいものになることを願っています。

高校を卒業される皆さんがこれから出ていく社会は、これまで我々も含めて皆さんが経験したこと無いほど変化の速いものだと思います。コロナ等、全く想像できないような大きな変化もまた起こるかもしれません。このような社会に飛び出していく皆さんに

は、湘南学園で身につけた主体的に考える力を武器に、大局的な視野を持ちながら、その場の状況に応じた判断を行い、自らの道を創り出していったいただきたいと思っています。湘南学園生としての誇りを胸に歩み続けてください。

卒業生の保護者の皆様、ご卒業誠におめでとうございます。保護者の皆様には、これまでのご理解・ご支援に感謝申し上げますとともに、今後一人ひとり違った道を歩んでいきます卒業生に、これまでと同様に、温かいご支援をお願いいたします。

After・With コロナ時代における コミュニケーション

2020年より新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、湘南学園を含め多くの学校、企業がその授業形態や業務形態を変えなければならず、これまでのコミュニケーション方法に大きな変化が起こり、「リモート」や「テレスタディー」という言葉が定着しました。

昨年度の長期休校の後、この湘南学園においても、子どもたちの授業をWebでのテレスタディーとし、段階的登校の期間を経て、通常どおりの学校生活に戻るようになりました。

先生方、職員の方々におかれましては、このような毎日目まぐるしく状況が変わり、先行きが見えない状況の中において、「子どもたちの学びを止めない教育実践」や「子どもたちの不安やストレスのケア」のために、毎日子どもたちのことを考え、話し合い、その教育を実践していただいていることに心より感謝申し上げます。

この2年間で社会的にテレスタディーやテレワークが定着したといっても、やはり子どもたちの顔や雰囲気を見ながらのコミュニケーションの大切さを感じています。これらの社会は「リモート」と「対面」のバランスが必要になってくると考えますが、そのような環境の中でも、学校や家庭においては、改めて対面で話をすることを大切にして、子どもたちの心の成長をケアしていきたいと考えています。



SDGs カーボンニュートラル

2020年10月、日本政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。近年、国内外で様々な気象災害が発生しています。個々の気象災害と気候変動問題との関係を明らかにすることは容易ではありませんが、気候変動に伴い、今後、豪雨や猛暑のリスクが更に高まることとが予想されています。

日本においても、農林水産業、水資源、自然生態系、自然災害、健康、産業・経済活動等への影響が出ると指摘されています。気候変動の原因となっている温室効果ガスは、経済活動・日常生活に伴い排出されています。国民一人ひとりの衣食住や移動といったライフスタイルに起因する温室効果ガスが我が国全体の排出量の約6割を占めるという分析もあり、国や自治体、企業だけの問題ではありません。カーボンニュートラルの実現に向けて、誰もが無関係ではなく、あらゆる組織が主体的に取り組む必要があります。将来の世代も安心して暮らせるため、今から、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて、取り組む必要があ

ります。
(出典…環境省HPより)
湘南学園においても、昨年度より「SDGs」、「カーボンニュートラル支援」の一環として、「再生可能エネルギー由来の電気を購入しています。また、学校法人湘南学園として「かながわSDGsパートナー」に登録・加入し、「総合学園の環境を生かして持続可能な社会の担い手を育てる」という目標を示しました。今後も湘南学園として、持続可能な社会を創って参ります。



さいごに

最後になりましたが、教職員・PTA・同窓会・後援会・食育ラボ・パートナーをはじめとする「チーム湘南学園」の皆さま、この2年間のご支援、誠にありがとうございました。我々の理事在職中にいただきましたご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。2022年度は理事会役員改選期にあたります。4月から始まる新しい湘南学園理事会に、引き続きご支援・ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。





2021年度を振り返って 今年度末をもって退任のご挨拶

学園長 山田 明彦



制約の長期化に耐えて 学園生の学びや 体験を守る努力

今年度も、コロナ禍をめぐる厳しい情勢が長期化しました。「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」が発令・延長され、爆発的な感染拡大や深刻な医療危機が続き、デルタ株やオミクロン株は若い世代にも感染が広がりました。ワクチン接種は学園関係者にも切実で、様々な努力をいただいて進めました。通常登校後も感染予防対策の励行は必須であり、校内消毒や簡易検

査など環境整備を続けました。各パートと全学でいつも情報共有と対応に努めました。

学園生にとって大切な体験学習や学校行事では、コロナ情勢を受けて延期・調整して実施する模索が続けられました。宿泊行事では小6修学旅行や中3・高2の研修旅行、小学校の海の学校・山の学校・雪の学校もそうして実現できました。全校体育行事でも、幼のらんらんにここらんど、小のたいいく表現まつり、中高の新体育祭が実施できました。どのパートでも重要な総合学習や全校行事をなるべく中止にしないで、学園生自身の主体性を大事にして、感染対策によるプログラムの調整も経て実現にこぎつけたのです。オンラインの活用も更に進展しました。入学・卒業の式典や公開行事では、保護者の参観人数を制限しながら、併用でライブの動画配信が周到な準備により実施されました。また授業参観や学級・学年の懇談会でもZoom開催が広く活用されました。学外向



けの学校説明会などでもこのスタイルは利用されました。PTA活動も、コロナ禍で例年の多彩な活動が実施できない厳しい制約におかれ続けましたが、委員の選出から各種の会議までリモート開催を多用され、実施可能な活動を探っていたいただきました。

全学の食と食育支援を担っていた湘南食育ラボは、幼小中高のスケジュール変更に沿って感染対策を周到に徹底され、きめ細かな業務を続けてくださいました。小学校の放課後アフタースクールは、児童の学びと体験を決して止

めずに保証しようと、感染対策に留意しながら定期プログラムとスペシャルプログラムを調整、実施していただきました。

世界各地の情勢にも接して、今後も油断せず感染対策を心がけ、「ウィズコロナ」の辛抱を続けていく必要が実感されます。この先回復が速まり「アフターコロナ」の実感が得られるようになって、単純な回復ではなく、「社会における人びとのつながり」の理解を深め、「地球環境を守る生活や行動」を心がけるよう、独りひとりの生き方が問われていくことでしょう。

湘南学園独自の

魅力と可能性

私は、今年度末をもって学園長を退任させていただきます。この職責を2期4年間お預かりしてきましたが、健康上の理由から今期限りと決め、40年間お世話になった湘南学園を離れることにいたしました。この先体調を整えてから、学園時代の経験をどこかで役立てられるように努めていきたいと思っています。

新年度は次期学園長として住田昌治先生にご就任いただきます。これからの学園教育

の更なる発展と全学の連携を指導してくださる得難い教育者であると、私から推薦させていただきます。至らぬことの多かった私に代わり、創立100周年を目指す湘南学園のために、様々な学内の取り組みを支え、皆様方の力や意欲を結集してリードしてくださると信じております。

湘南学園は、湘南の鵠沼に立地するロケーションに恵まれ、幼小中高を併せ持つ総合学園であり、子どもたちの成長と幸福を支えるPT共同の運営が続けられてきました。男女共学で伸びやかで和やかな校風を大切にしながら、建学の精神にもとづくESDの推進が更に大事な課題になっていくはずです。今後とも学園教育へのご理解と広範なご協力をお願い申し上げます。



学園を愛する卒業生の1人として思うこと

同窓会副会長 前川 力

この2年間は、過去に体験したことのない、全世界を巻き込んだコロナ禍により、経済、社会、仕事も学事も多くの人々が甚大な影響を受け、まだ進行中でもあり油断できない日々が続いています。私も長い間、同窓会幹部を続けてまいりましたが、この度は同窓会もやむなく2年連続で書面総会開催となりました。十分な活動も難しいこの機会に全卒業生を対象にアンケート調査を始めて実施致しました。

既に関係者の皆様方には、従来よりもページ数増の同窓会誌「SEASIDE」、見開き4ページで詳細をご覧いただいたかと思えます。このアンケート結果を今後の同窓会活動に活かすべく、作業は会長を中心に密を避け、少数幹部による具体的な分析作業に入りました。1つは年1回、1万部以上発行の会報誌では情報が限られ、ホームページの充実による双方向の新しい情報提供が今まで以上に求められていること。又、具体的には年齢幅関係なく興味は学園全体の近況、現在のクラブ活動の紹介記事、学園行事の日程や様子を知りたい等。一部の高齢者からは、リタイヤされた先生方の情報を知りたいとか、母校への懐かしさを伺わせるものもありますが、現状は学園事務局の対応に限界があるようです。出来れば過去の教員名簿記録管理サービスとか、歴史ある学園に相応しい、各

時代の卒業生が持つ想い出の宝物を少しでも期待に応えられる受け皿を今後同窓会も協力して検討していけたらと考えています。

我々同窓会、学園卒業生1万人を超す仲間、変わりゆく社会、変化する日常、更なる新しい時代に向けて日々頑張っています。チーム湘南学園も、これら変化する世の中に遅れないような存在レベルが求められています。

母校が世の中に取り残されないように、卒業生皆が広く応援を継続していくことを常に同窓会を通じていると思います。

学園理事長も述べておられるように、「現代社会に於いて急速に変化する時代の流れに対応し、自らの考え行動できる人材の育成が求められている。建学の精神を不変の理念とし尊重しながらも、社会の変化を敏感に感じ取り、様々な課題に挑戦していく必要があります。」

以上からも、コロナ禍の影響もありますが、全国的にもユニークなPとTの共同経営も新しい時代の変化に直面しています。共に評議委員の立場である同窓会会長とは常に問題意識を持ち、90周年、100周年へ向け、社会変化に目を向け、耳をかざし、柔軟な変革が今や求められているのではと考えます。学園を愛する卒業生の一人として常に感じてきた1年でした。

繋がるバトン



後援会会長 田辺 真理

湘南学園後援会は、会員の皆様や学園関係者の方々のご理解やご協力を賜り、おかげさまで二〇二二年度は設立から十四年を迎えることになりました。

これまで学園の子ども達を愛し応援することで、微力ながらも学園の発展に貢献できればという思いで活動して参りました。その精神の根幹は、湘南学園PTAから受け継いでおります。

私自身、過去長年のPTA活動の中で、子ども達が学園生活をいかに有意義に楽しく過ごせるか、どんな応援をすれば少しでも役に立てるかをいつも考えて活動して参りました。会議で遅く迄熱く議論し、イベント開催の準備をし、勿論苦難も沢山ありましたが、今では懐かしく感慨深い思い出ばかりです。そのPTA活動の中で得られたことは、子ども達から貰った沢山の笑顔と、先生方との信頼関係。中でも一番の宝物は、かけがえの無い大勢の仲間を得たことです。大変有難いことに、その大事な仲間とは今も尚、後援会で繋がっております。

残念ながら、この二年間は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、後援会が関わるイベント（PTAバザー・英語力向上支援・ヤングアメリカンズ等）は中止になり、後援会として本来の活動もままならない状況でありました。そんなコロナ禍の不自由な生活の中



2019年度バザー

でも、学園の子ども達は、いかに楽しく有意義に過ごすか常に模索し、チャレンジする姿は、会議中でも耳にすることがありますが、学園のホームページやSNS配信で見ることが出来ます。子ども達の創意工夫や、各々の特質を生かして事を実現させる精神力は逞しさを感じます。そんな姿を見ると、何か応援できることは無いかとこちらもワクワクします。

後援会は二〇二二年度こそは、総会と延期されている講演会を開催したいと思っておりますが、年明けてからの、新型コロナウイルスオミクロン株の猛威を受け、集会での開催は次年度も叶わないかもしれません。その他のイベント予定も先が見えませんが、それは何処も同様です。希望を捨てず時期を待ちたいと思います。

私事ではございますが、後援会設立当初より副会長として携わり、その後会長を四期務めさせて頂きましたが、二〇二二年度を以って退任させて頂き、次世代に思いを繋げてバトンタッチ致します。このような繋がりを持てた湘南学園には感謝の言葉しかありません。その後は、後援会会員として学園の子ども達を見守り応援し続けたいと思います。

末筆ではございますが、皆様のご多幸と湘南学園のさらなる発展をお祈り申し上げます。



今できる事とは？



PTA会長 大津 誠 二

皆様に置かれましては、生活に新たなルールが加わり一層のご努力をされている事と存じます。

さて、過日読んだ本の中「ネイティブアメリカンの教え」なるものがあり、保存をしていたデータに左記の様な文章が在りましたのでここに引用させて頂きます。

地球にあるものはみな目的を持ち
いかなる病にもそれを治す薬草があって
すべての人には果たすべき使命がある
大地とその上に住むものすべてを
敬意をもって扱いなさい
偉大なる精霊(精神)を保存しつづけなさい
あなたの仲間に大いなる敬意を示しなさい
すべての人々(人類)のために
手を携えて働きなさい
必要とされたなら場所を問わず
援助と親切を与えなさい

以上です。

正に現在を象徴するかの様な内容ですが、太古の昔から現在の新型コロナ禍の様な事が繰り返されている事も読み取れます。我々のできることは各家庭で社会のルールを遵守しこの困難に立ち向かっていける環境を整えて行く事かも知れません。子供達の未来ある学園生活の為にPTAも一層の尽力をして参ります。



食育ラボより

特定非営利活動法人湘南食育ラボ

理事長 原 田 ゆう子



特定非営利活動法人湘南食育ラボは、湘南学園創立80周年記念事業の一環として2013年に設立され、これまでも多くの保護者や教職員の方のご協力の元に運営して参りました。

一昨年から続く新型コロナウイルスの影響により、学園内の様々な活動にも多くの制限があったことと思います。カフェテリアでも座席数を減らしたり、食事中の会話の禁止など新しい生活様式に対応してきながらも食育を進めていく1年となりました。

●全学を通しての食育

湘南食育ラボでは湘南学園の幼稚園から中高までの総合学園のメリットを生かした食育を推進しております。例えば今年度は幼稚園で園児が育てた野菜をカフェテリアで調理し、提供しました。自分たちが愛情をもって育てた野菜がなんの料理になるのかな?と、とても楽しみにしていたようで園児からお礼のお手紙もいただきました。小学校ではSDGsに関する学習の中で食べ残しが議題に挙がり、どうやったらそれらを減らせ

るのか、カフェテリアで出来ることはないか児童たちから提案をもらいました。その中で出来ることから実践していこうということになり、管理栄養士の指導のもとでプロジェクトが進んでいます。中高では昨年出来なかった高3生がカフェテリアで世界各国の料理を食したり、中2生はさんまの捌き方の実演後にさんま定食を食べるなど自分たちで見えて、感じて学ぶ食育を行っております。食材にもこだわりを持ち、今年度より白米よりも栄養価の高い七分つき米を使用しています。



このように幼いころから様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、卒業後も食に関心を持ち、楽しめる大人に育つて欲しいという願いを込めて日々活動を行っております。

今後も子どもたちに安心安全な食を届け、皆様に食育ラボの活動をご理解いただけるように精進してまいります。

未来はあそびの中に

幼稚園園長 古田 優子



これからの時代は、益々多様な時代に入ります。急速に変化する社会を生き抜く力を育むために『非認知能力』の重要性が求められています。

『非認知能力』とは、点数のように数値化されない目には見えない「生きていくために必要な能力」です。

自己肯定感・自立心・協調性・コミュニケーション力・探求心・工夫する力・粘り強さ・乗り越える力など、いわゆる『心の土台』となるものです。

この能力は、生涯にわたって育まれるものですが、特に乳幼児期にしっかりと土台をつくり、それを積み上げていくことが重要です。



幼稚園では、幼児期にふさわしい『生活』や『あそび』を通して『非認知能力』を育むことを重点におき、『いきいきと元気に生活する子ども』を目指して保育を進めています。

子どもの『あそび』は、『やりたい』という興味関心が心を動かし、様々なこと・もの・人へと関わっていく自発的なものです。『何かをさせる』のではなく、子ども自身が『何をしたいか』を重要視することです。

全身泥だらけになって砂遊びをする人、自分のなりたて役になってごっこあそびをする人、草むらや園庭の隅で虫探しをする人、空き箱を使って黙々と電車を作る人、うさぎやチャボに餌をあげたり抱っこする人：幼稚園のあらゆる場所でいろいろな『あそび』が展開されています。



『楽しいな！』『どうして？』『なんで？』『もつと本物みたいにした！』など、様々な感情が沸き起こり、好奇心

旺盛な子ども達は、わくわくしながら確かめたり、探ったり、調べたり、挑戦したり、探求心を働かせていきます。見たり、触ったり、五感を通して感じた体験は『気づき』

や『発見』が、いっぱいあり、それが学び（学習）へと繋がっていくのです。



このように日々の『生活』や『あそび』を教育活動の根幹においた保育は、創設当初から現在に至るまで貫いている教育理念です。それは、『湘南学園五十年のあゆみ』「六十年のあゆみ」にも記載されています。

四十数年前は、知識や技術の習得等、いわゆる目に見える知的能力『認知能力』のみを重視される傾向があり、幼児期の『あそび』から育まれる目には見えない『非認知能力』の重要性を軽んじられる風潮もありました。

しかし今では幼児期の『あそび』から『生きる力』が育まれることが明確化され、幼児の自発的な活動としての『あそび』を、重要な『学習』として位置づけられてきたのです。

人間が豊かに生きるためには、幼児期に育まなければならない力は、昔も、今も、そしてこれからも変わらないという事です。

『子ども達とともに創造する保育』

二〇二〇年から二年以上に及ぶ新型コロナウイルス感染症拡大で、子ども達の生活は大きく一変しました。様々な制限のある生活を、幼き子どもも受け入れなければならぬのです。

子ども達の揺れ動く心に寄り添いながら、未来に向かって成長し続けている子ども達の『成長の糧』となる貴重な園生活の一日一日を大切に歩み、『明日へと繋げられるように』と今もなお願う毎日です。

コロナ禍であっても、子ども達一人ひとりが『今日の幼稚園、楽しかった！』という『心の充実感』を抱けるようにと、二つのことを心がけて教育活動に取り組んできました。



◎一つは『コロナ禍だからこそ、人との距離は離れても、心の距離は近づけよう』

◎もう一つは『子ども達とともに創造する保育を展開しよう』

幼稚園生活のリーダーは、六十名の年長児です。それぞれの思い考えを出し合い、力を合わせてより豊かな生活を創造していきます。

コロナ禍でやむを得ず変更しなければならぬ活動もありましたが、子ども達の持つ純粋な心、柔軟な姿勢、素晴らしい感性としなやかな心で、コロナ禍の様々な課題や困難を次々乗り越えていくのです。

子ども達に委ねることで、『より楽しく』『よりいきいき』とした『子ども主体』の活動にしていったのです。

その力強い主体的な姿は、私達大人の凝り固まった考えを解放してくれる大きなきっかけとなりました。同時に、わくわく心をときめかせながら『子ども達とともに創造する保育』へと、さらに一歩を踏み出したのです。

幼稚園はいつまでも『子どもが主役』の『学びの園』であり続けてほしいと願っています。



子どもたちによる 子どもたちのための学校

小学校校長 岸 田 修 成



＊成り立ち

日本初の小学校は、国の正式な学制による三年前の一八九六年五月二十一日に京都で創立開校されました。その誕生は、地元有志の寄附や寺社の敷地の一部で賄われ、校舎も民家と変わらないものでした。思うところ、成り立ちは湘南学園と同じような気がします。

湘南学園は八十八年前に子どもたちにより良い教育を、という願いのもと保護者と教師が創った学校です。日本で初めて創立された学校と志が同じであるところに、ひとつの感動すら覚えます。

＊一年生

二〇二一年度始業式の日。桜の木は花より若葉が多くなつた中、たくさんの子どもたちが開門を待ちわびていました。昨年度のこと

を思うと、始業式の日に二、六年生までの児童が揃う



ことに幸せを感じました。

翌日には蒼天の空の下で入学式が行なわれ、八十九名の新一年生を迎えることができました。六年生に手を引かれ、この日から湘南学園小学校での生活が始まります。一年生のクラス名は、絵本『はらぺこあおむし』（エリック・カール作）に出てくる果物から名付けられました。「あおむしのように、子どもたちは成長し、やがて羽を広げます。すべての子どもたちが、私たちの未来そのものです。」エリック・カールの言葉です。担任の先生から名前を呼ばれ、「はい。」と返事した一人ひとりの声から未来を感じました。

「一年生の教室前に行くとうれしかった。前はつれていかれる側だったのに、今はつれて行く側になって、もう六年生かあとと思いました。自分のやくわりに責任をもつてがんばります。」
これは自身の小学校生活を振り返りながら記した六年生の言葉です。二年生は「学校

探検」と称して、一年生のために小学校の中を案内してくれました。

＊心のキョリ

伝統の交歓会も二年振りに行われました。交歓会は入学したばかりの一年生を迎えるため、みんなで歓びを交わし合う会です。

全校児童が
鵠沼の海で
砂の造形を
作ります。

児童会班の
リーダーが
決めた今年
度の目標は、
「ともに考
え、協力し、



最高の作品を作り、心のキョリを縮めよう！」です。子どもたちが海に向かって走っていく姿を見て、心に自粛は不要だと感じました。「心のキョリ」がなくなつた一日でした。詩人の谷川俊太郎さんは「正しい理屈や理論じゃないものが人間を動かすこともある、それを信じてもいいんじゃないかと僕は思います。」と言っています。まさに、子どもの世界は正しい理屈や理論ではなく、心で通じ合い動いているのです。

＊豊かな学び

「豊かな学びをめざして、子どもを中心とした授業づくり」これは、今年度の私たち教職員の研究主題です。湘南学園小学校の過去の授業実践記録には、折節の先生方が教師として自身を高めてきた軌跡が数多くあります。今日まで重ねてきた一つひとつの授業が、財産となっているのを感じます。どの時代の記録を見ても、そこに子どもの姿が必ずあるのです。「これを学ばせたい、学んでほしい。」という願いが込められています。まさに、「子どもを中心とした授業づくり」ばかりです。授業の主体はいつも子どもたちです。子どもの意見や考えで授業はどんどん広がります。授業はまさに生きものなのです。

＊願い

春の桜の開花のように華やかに。夏の暑さのように勇ましく。秋の紅葉のように彩り豊かに。冬の海風のようにたくましく。子どもたちの一年間は四季の移ろいより早く過ぎていきます。色鮮や



かな日々を過ごす中で、美しいものを美しいと言える心を持つてほしいと願います。友だちのがんばりに感激できる心。友だちの優しさにありがとうと言える素直さ。そんな豊かな感性を持った子どもたちのために、どのような状況であろうとも、学びを止めるわけにはいきません。

湘南学園小学校には、一人ひとりが活躍できる土壌が八十八年の長きに渡って耕されてきました。この地で自身の可能性を芽生えさせた卒業生がたくさんいます。私自身も教師として成長させてもらいました。多くの人の学び舎は今年八十九周年を迎えます。

コロナ禍でも、 さらによいものを

中学校高等学校 校長 伊藤 眞哉



生徒による

リモート授業 アンケート

夏休み中に爆発的な増加を見せた感染拡大の第5波のため、9月は登校日を最小限に絞り込み、全面的にリモート授業に切り換えることになりました。1コマ40分・1日6コマのリモート授業は大変だったと思います。が、皆よくついてきてくれたと思います。

そんな厳しい状況の中でも、配信される授業をただ単に受けるのではなく、それに対するリアクションをしっかりと返してくれるのが学園生です。リモート授業真最中の9月半ば、高1生有志の発案で同学年の全員を対象としたアンケートが自主的に実施され、学年の93%にあたる生徒が回答を寄せてくれました。有志の皆さんは「もしもまたリモート授業が行われるような事態になったら、先生方にはさらによいものを目指していただければ」という願いとともに、校長・教頭、そして執行部の先生方にその結果報告とさまざまな提案をしてくれたのです。その内容はリモート授業のメリット・デメリットをよく整理してあるだけでなく、家でひ

とりで授業を受けざるを得なかった皆さんの実感にあふれた、実に説得力のあるものでした。実際に1月末に再度リモート授業を行った際には、そうした提案を踏まえて、生徒の皆さんの実態によりフィットした形でリモート授業を目指すことができたと思います。

この「コロナ禍でも、さらによいものを」という精神は、今年度の様々な生徒会活動にもあふれていました。

ハイスリット体育祭 〈BRAVE HEART〉

前年度は高1・高2生だけで実施せざるを得なかった体育祭ですが、今年度は例年通りの5学年での実施を目指すところから議論が始まりました。ただ、それだけ多くの生徒が常時グラウンドにいることになったら、たとえ屋外とは言え相当密な状況をつくり出してしまいます。そこで考えられたのがオンラインと実演のハイブリット。開会式と閉会式は全員で行いますが、高1以下の皆さんは一旦教室に戻って映像を通して応援し、自分たちが出場する時だけグラウンドに移動してくるわけです。とても大変なプランでし



たが、実行委員の皆さんの学年を超えた連携はすばらしく、競技ごとの大移動を見事に仕切ってくれました。

このベースプランはすでに前年度の実行委員の皆さんが練り上げてくれたのですが、その先輩たちからしっかりとバトンを引き継いだ高2生の皆さんが勇敢な心(BRAVE HEART)で形にしてくれたのです。5学年の生徒諸君が5色に分かれて披露してくれたアトラクションの躍動や、初めての体育祭に輝くような笑顔で参加してくれた中1・中2の皆さんの姿が、今も強く印象に残っています。

全員参加の学園祭 〈Flash〉

前述した第5波の影響で、学園祭は今年度も12月末に実施することになりましたが、ここでも「さらによいものを」という生徒諸君の思いが存分にあらわ



れていたと思います。前年度は準備段階も当日もクラスの半分までとしていた人数制限を、準備は各クラス25人づつに減らして、本番の2日間には全員で参加できるようにしましたが、これらもすべて生徒会の執行部の皆さんと教員側との協議会を半年以上の間くり返す中で決まってきたものです。感染リスクを減らすための昼食時間や場所の指定、廊下の混雑を少なくするためのモニターリングやスタンブカードの導入、二公演制の間夜祭など、コロナ禍ならではの工夫や苦勞も数多くありましたが、それらを計画通りにしっかりとやり上げてくれた実行委員の皆さんには改めて感謝したいと思います。アーチや校内各所の装飾、各クラスの出しもののクオリティも素晴らしく、できれば保護者の皆さんを含め、外来のお客さんにも見ていただきたかったです。今回のテーマである「Flash」。その言葉そのままに、一瞬だけでもかけがえのない輝きを放ちながら、その思い出

〈ancora〉

合唱コンクールを もう一度

コロナ禍において最もハードルの高い学校行事が合唱コンクールでした。今年度も1月中旬までは規模を縮小しながらも何とか実施する方向で検討していましたが、猛烈な第6波の襲来によつて最終的には実施を断念するしかありませんでした。

中学のテーマとして掲げられた〈ancora〉には、何としても湘南学園の伝統行事を復活させ、まだこの行事を体験したことがない中1・中2の皆さんにもその素晴らしさを実感してもらいたいという実行委員の皆さんの強い願いが込められていました。形にすることはできなかつたけれども、その思いは先輩たちに確かに引き継がれています。来年度にはまたこのキャンパスのあちこちで互いの歌声を響かせ合える日が戻ってくることでしよう。

今年度もまだまだできること・できないことを模索しながらの日々が続いていますが、そんな中でも自分たちのベストを尽くそうとする学園生たち。ひとりひとりの奮闘を周りのみんなで支え合いながら、次年度も「さらによいものを」目指していきましょう!!

2021年度 湘南学園 全学教育研究集会

コロナ禍の子どもと学園教育

子どもが自己を育てていくための

教育を探った今年の成果を振り返って

実行委員長 有 蘭 和 子

今年度 全学教研

開催にあたっての

問題意識

「長い休校から始まったコロナ禍の一年半、子どもたちの生活はどうなっていたのだろうか」：今年度の全学教研は、各パートからあつまつた実行委員で意見交換することから始まりました。

外遊びができないから体力落ちてる。お泊まり保育のドキドキ・ワクワクを経験できなかった。くつついちゃいけないから一緒に遊べない。年下の子たちのお世話もしてあげられない。向かい合って話せないから、みんなバラバラに考えて自分の意見だけ言う。せっかくチームワーク育ててきたはずなのに、楽しみにしていた宿泊行事が中止になっちゃった。はて、この子たちのこれからはどうなってしまうの？

中高生は、この一年半、様々な制約下であっても、知恵と工夫を凝らし、苦勞しながらもいろんな自治活動にチャレンジしていましたが、それはある意味、「豊かな幼稚園・

小学校時代の経験」の賜物。果たしてこれから、今までの自治活動や行事づくりはできるのか？「コロナで、ポツカリ開いてしまった穴：埋めなきゃ」：そんなことを話していました。

そしてもちろん、感染症予防の制約が大きい中でも、各パートで様々な工夫がなされ、新しい実践が広がったことも共有しあいました。

90周年に向けた

学園の新たな課題を
鮮明化するための
講演ライナップ

今年度の全学教研は、コロナ禍という困難さの中にあっても、途絶えることのなかった子どもたちの活発な様子。同僚たちの工夫や奮闘。そうした各パートの様子を互いに知り合い、90周年に向けた学園の「新たな課題」もみつけた！とのコンセプトを軸にスタートさせました。

コロナ対応に追われながら、子どもたちの本音を私たちは本当に聞いているのか、「ソー

シャルディスタンスって、子どもの発達にとって、どんな影響が出るんだろう」：そんな議論の中から出てきたのが今回の企画でした。もともと、各パートからの実践報告と、環境や食に関わる特別分科会も企画していたのですが…。

(以下、講演内容の詳細なまとめは、学園HPの学園長通信に)

全学教研プレ企画

日本体育大学 6月30日
野井慎吾氏 講演

「ちょっと気になる
子どもの心とからだ」

「子どもたちは今、想像できないほどの試練の中にいる：ソーシャル、メンタルまで、

子たち達を引き離すべきではない。外に出られない・友達に会えないことを一番不安と感ずるのはまさに子どもたちの「発達欲求」であり、『動

いてヒトになり、群れて人間になる』ということを、子どもたちは身をもって私たちに示しているのだ。」と野井先生。さらに講演の中では、国連・子どもの権利委員会がその声明のなかで、「今回のパンデミックに関する意思決定プロセスにおいて子どもたちの意見を聴かれかつ考慮される機会を提供すること」、「子どもたちが、現在起きていることを理解し、かつパンデミ

ックへの対応の際に行なわれる決定に参加していると感じることができるようである」と指摘している点についても触れられました。

全学教研当日 基調講演

千葉大学 8月27日
片岡洋子氏 講演

「子どもが子どもで
いられる社会を」
子どもが自己を育てて
いくために、私たちに
できること

片岡氏が提起されたのは、教育における「ケアの視点」。

氏はまず、映画『プリズンサークル』(受刑者同士が「対話」を重ねることで、各々が犯罪に至った原因などを探る「セラピューティック・コミュニケーション(回復共同体)」を取り入れた、日本で唯一の施設を長期取材した映画)を紹介しました。

「誰にとっても、自分の本音を語ることができるのは、その語りを否定せずに関心を持って聴いてくれる人がいるから。それを私たちが丁寧にやっていけば、過去のトラウマによって、見ない、聞かない、感じない：そうやって感情を麻痺させて生きてきた自分のバラバラな経験が一つの記憶に繋がる。するとようやく自分が目を背けていたことと向き合えるようになり、「虐

待とは何か」「加害とは何か」：自分の経験に名前が与えられ意味が与えられる。そして、次第に頑なさがほぐれていき、「恥ずかしいけど、無性にぎゅーっ」としてもらいたくなる。そんな感情がほとばしる。片岡氏は「そこに希望を感じながらも、映画館の外に出ると、彼らをネグレクトしてきた私たちの社会に引き戻される」と語られました。

他の誰でもない自分、社会の役に立とうが立つまいが、自分が生きていくことの意味を見いだせる：そのための教育。子どもたちが、「自身の力で自己を育てていける教育」のありかたを探って実践することの大事さを感じました。

会の最後には、共同研究者である都留文科大・佐藤 隆先生からの問題提起。

氏は、「GIGAスクール構想」については深く考察する必要がある：とした上で、この一年半、子どもの内側から発せられる意欲を大事にしていく「学校の意義と役割」について語られました。

最後に、「…とはいえ、教員が燃え尽きてはいけない」という野井先生の言葉が蘇ります。大人も楽しく、のんびり、輝きながら：「よい加減」で探究しよう。「学んだあと笑顔になれる教研」を、今後追求していきたいと思っています。



2021年度 「松ぼっくり基金」のご報告

理事長 内海 直人
学園長 山田 明彦



湘南学園は、今年度もコロナ危機と向き合いながら学事と経営を進めました。感染予防対策や衛生環境の整備は広範な分野におよびました。消毒・検査の諸物品を購入し、学校行事の延期や中止に伴う支出があり、ICT環境の構築も多額の費用が必要でした。行政からの補助金や皆様からの寄付金にも支えられましたが、総合学園として各校・園の施設修繕や改築へ向けた備蓄など中長期計画を検討すると、今後の財政難は避けられませんが、毎年度の予算編成で削減努力を続け、教職員の採用計画も増員等を抑制し、校納金増額の検討も行っております。

「湘南学園松ぼっくり基金」は、学園教育の充実と持続可能

な経営の安定をはかり、独自の私学として教育の使命をはたすため、2019年10月に創設いたしました。2020年度は全国臨時休校以後の情勢を受けて案内発送を中止し、ネットご応募のみとさせていただきました。今年度は2021年4月下旬に、第2回のご案内資料一斉発送を行いました。別表の通り1月上旬までで合計約1900万円のご寄付を頂戴しております。心からお礼を申し上げます。次年度は、2022年4月下旬に第3回のご案内一斉発送を予定しております。

この基金では「使途指定寄付」の項目を設けており、「その他」ではご指定の使途を具体的に明記していただけます。特に学園小教育環境支援や中高部活動支援のご寄付が多くなりました。また同窓会や後援会から毎年度「教育振興基金」の位置づけで寄付金を頂戴し、コロナ禍で不自由な学園生達に何か楽しめるイベント等で役立てられたらとの支援金も頂戴しました。使途指定分野では予算外事業での早期活用をはかり、一般寄付金等は基金として積み立てを基本にお預かりいたします。



松ぼっくり基金

2021.12.31
寄付金納入期間 2019/10/16～2021/12/31

寄付金合計額

18,892,569 円

使 途 別	合 計		内、継続寄付	
	件数	金 額	件数	金 額
一般寄付金	204	6,582,175	1	5,000
学園高校生の海外留学支援	5	43,333	2	20,000
学園中高生の部活動支援	36	1,373,333		
学園小学校の教育環境支援	65	3,323,395	21	285,000
学園幼稚園の教育環境支援	25	530,000	16	320,000
特別教職員採用・教職員研修支援	5	208,333		
その他	21	366,000		
記入なし	33	1,466,000		
教育振興寄付金より	1	5,000,000		
合 計	395	18,892,569	40	630,000

※使途が複数の場合は、件数は記載順でカウント、寄付金については均等に分配

関 係 別	合 計		内、継続寄付	
	件数	金 額	件数	金 額
卒業生	138	3,873,000	20	11,000
在校生保護者	206	11,965,000	20	520,000
(高等学校)	(52)	(1,895,000)		
(中学校)	(47)	(1,205,000)		
(小学校)	(72)	(8,145,000)	(4)	(200,000)
(幼稚園)	(27)	(510,000)	(16)	(320,000)
(記入なし)	(8)	(210,000)		
教職員	0	0		
一般	7	70,000		
企業・法人	7	2,310,000		
団体等	3	377,569		
フラワーガーデン有志	16	116,000		
記入なし	18	181,000		
合 計	395	18,892,569	40	630,000

※関係が複数に渡る場合は、件数および金額は記載順でカウント
(企業法人で複数に渡る場合は、企業・法人でカウント)

全学の教育環境整備から



★幼稚園の園庭拡張工事

幼稚園では、この夏に園庭拡張工事を実施しました。コロナ禍も受けて従来の保育実践に制約が増した中で、園庭を拡張して新たなグリーンゾーンを創り、動線の水捌け改善工事（園庭にクレイ舗装工事・暗渠排水管設置）を行いました。工事中は学園生や保護者の皆様への安全対策に留意して進めましたが、ご理解ご協力をいただきましたありがとうございます。



の場となりました。「木登りすると見晴らしが良くてとっても気持ちいいし、いろんなところが良く見えるから嬉しい」「もみの木があるから、クリスマスツリーにできるから嬉しい」「チャボをお散歩させたり、木にとまらせてあげられるから楽しい」といった子ども達の嬉しい感想に接しました。子ども達の笑顔や伸びやかな姿が広がりました。



★小学校の「学びの森」整備工事

「学びの森」は小学校にあるビオトープの呼び名です。鵠沼地域の生き物たちが集まることを目標に設置され、地下水により循環する水辺の環境に多くの生きものが集まり、教室に隣接する場所には多く

の農作物が栽培されています。季節折々の豊かな光景が広がる場所です。

この学びの森を昨年度に整備しました。鬱蒼とした樹木を伐採し、淀んだ池をきれいにし、多種多様な生きものを呼ぶため

です。学びの森の木は鵠沼地域と同じ樹木を植えて始まり、今回の植樹では実のなる木を更に植えた形です。整備前からエコスクール委員会が活動を展開して「グリーンフラッグ」を取得していますが、整備後は田んぼとして使っていた池に、一時は絶滅したと言われていた「藤沢めだか」を放



流し、その繁殖に寄与しています。その放流や学びの森の掃除などは全校児童に呼びかけています。野鳥や水中生物など生きものが増えてきたので、エコスクール委員会の子どもたちは「生きもののマッパ」を作成し、全校の児童たち

学びの森に興味を持ってもらえるよう、主体的に活動しています。

★LED化の更新工事

政府によるエネルギー基本計画において、地球温暖化防止対策が求められ、蛍光灯や水銀灯の生産終了が現状も続いております。一方、

学園の施設設備も老朽化が進み、照明設備も本来の明るさから減衰し、更新の必要性にも迫られていた状況でした。さらに、LED照明に変えることで経費節減効果も相当得られる見込みがあることなどから、照明



テニスコートなどの施設で、LEDへの切り替え工事が完了しました。2022年度は、小学校校舎のLED化工事を予定しています。LED化が完了した施設は、これまでにくらべ相対的に明るくなり、授業やクラブ活動において環境の改善に繋がっております。

器具をLEDにする切り替え工事を順次進めているところです。特に今年度水銀灯からLED化したアリーナ、グラウンド、テニスコートでは68%～74%の電力削減効果が見込まれています。



●●●●●●●●●● 学 校 法 人 か ら ●●●●●●●●●●

●理事会報告

これまでに、次の理事会を開催しましたのでご報告いたします。

第1回定例理事会	4/3
第1回臨時理事会	4/28
第1回常任理事会・第2回臨時理事会	5/15
第2回定例理事会	5/22
第3回定例理事会	6/26
第4回定例理事会	7/17
第3回臨時理事会	8/7
第5回定例理事会	8/21
第4回臨時理事会	9/10
第6回定例理事会	9/25
第5回臨時理事会	10/8
第7回定例理事会	10/23
第6回臨時理事会	11/5
第8回定例理事会	11/20
第9回定例理事会	12/18
第2回常任理事会・第10回定例理事会	1/22

●評議員会報告

これまでに開催された評議員会についてご報告いたします。

第1回評議員会	4/3
第2回評議員会	5/22
第3回評議員会	6/26
第4回評議員会	9/25
第5回評議員会	1/22

主要な議題・報告等

- ・常務理事の選任について
- ・部会編成について
- ・幼稚園園庭拡張整備工事業者決定について
- ・2021年度長期修繕工事見積参加業者の選定について
- ・2021年度の36協定締結について
- ・2022年度からの全パート校納金改定へ向けて
- ・2020(令和2)年度事業報告書の確定について
- ・2020(令和2)年度決算書の確定について
- ・監事の選任について
- ・中高A校地LED化業者決定について
- ・小学校基本方針と原則5日制実施について
- ・水銀灯LED化工事業者決定について
- ・法人選挙管理委員会の設置について
- ・次期学園長の選任について
- ・2022年度予算編成方針(案)について
- ・ストレスチェックテスト結果報告(T-P-E-C報告会)
- ・2021(令和3)年度補正予算の確定について
- ・固定資産除却の確定について

主要な諮問事項等

- ・四号保護者理事の選任について
- ・2020(令和2)年度事業報告書(案)について
- ・2020(令和2)年度決算書(案)について
- ・監事の選任について
- ・小学校教育基本方針・原則5日制への移行について
- ・2021年度補正予算の編成(案)について
- ・固定資産の除却(案)について

●学園所有地の売却につきまして●

学園では昭和46年に那須ハイランド別荘地内(栃木県那須町)の土地を購入し現在まで保有し続けてまいりました。総面積は四区画で約3968平米となりますが、学園として有効に活用してきた実績がなく、今般売却の意思を学校法人として決定しました。

つきましては、学園関係者の皆様に広くご案内し、有効に活用いただける方に購入いただけることを望んでおります。ご意思のある方は、法人事務局清水までご連絡を頂きたいと思っております。

連絡先は、0466-23-6611(代表番号)です。

●SDGsに繋がる取り組み●

2020年4月に神奈川県SDGsパートナーに登録をした湘南学園では、これまで持続可能社会の実現を目指し教育活動を実践してまいりました。今年度は、神奈川県が取り組む「フードドライブ」活動に積極的に参画し、皆様のご厚意により多くの食料品をご寄付いただくことができました。改めまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。お預かりいたしました食料品は、「フードバンクふじさわ」様にお届けし、生活に困窮する方々の生活の一助に繋がった活動であったと思います。

SDGsに繋がる施策として、使用する電力の切り替えをしたこともあげることができます。新しい電力会社は、湘南地域(神奈川県)内で地産地消をとおし地域活性化を目指し事業展開している電力会社であり、再生可能エネルギーを提供していただいております。これまでと比べ経費削減も実現され、さらに地球温暖化防止にも貢献できるものと思います。

また、教育への支援にも力を注がれており、SDGsに繋がる教育活動に対し支援活動を推進されております。具体的には、学園で使用した電気料金の1%を応援していただける内容となっております。このプランは、湘南学園を支援したいとのご意思をお示しいただくことで可能であり、各ご家庭からのご支援も賜れるメニューも用意されております。(写真はカフェテリアにおけるフードドライブ活動の様子)

引き続き、ご支援・ご協力頂きたく、何卒お願い申し上げます。

事務局/清水

●●●●● 事務局からのご連絡 ●●●●●

●住所変更のお手続きについて

お引越し等の事由により、ご登録頂いている住所が変更された場合は、誠に恐れ入りますが、住所変更のお手続きをお願い申し上げます。なお住所変更に係る所定の様式は、事務局に準備させて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

●登下校・登降園時の自家用車送迎禁止について

湘南学園では、園児・児童・生徒の登下校・登降園にあたっては、自家用車で送迎は原則禁止とさせて頂いております。園児・児童・生徒の安全確保はもとより、近隣の住民の方等への安全配慮もご考慮いただき、改めてご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、園児・児童・生徒の病気や怪我等の特別な事情で止むを得ない場合は、必ず事前に学校(園)にご連絡くださいますようお願い申し上げます。

